

～介護、福祉、医療の現場から、命を学ぶ～

命の学校

詳しくはウェブサイトで www.trinityinc.jp/updated

第1期
受講者募集

9月8日
開講

『命の学校』はこんな学校です：

- ・日常的に命と向き合っている人たちから、今を生きるということ、働くということ、人と関わるということ、リーダーシップの意味を学ぶ。
- ・一流講師の考え方、生き方、働き方、あり方に触れる。

このような方にお勧めします：

- ・これまでの福祉業界や経営のあり方を、異なる視点から考え直してみたいと感じている方。
- ・業界、経験、専門を問いません。家族の介護、自分の未来、個人的な関心を持たれている方の受講も歓迎いたします。

第1回 9月8日(土)	金城敏彦 沖縄県社会福祉事業団理事長 / 樋口耕太郎 トリニティ社長
第2回 9月22日(土)	村瀬孝生 宅老所よりあい代表
第3回 10月6日(土)	高山義浩 沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長 * 1-601教室にて
第4回 10月20日(土)	徳永進 野の花診療所院長 * 1-601教室にて
第5回 11月10日(土)	藤田次郎 琉球大学医学部付属病院院長 / 樋口耕太郎 トリニティ社長
第6回 11月24日(土)	加藤忠相 あおいけあ代表
第7回 12月8日(土)	奥野修司 ノンフィクション作家
第8回 12月22日(土)	武元康明 半蔵門パートナーズ代表 / 樋口耕太郎 トリニティ社長
第9回 1月12日(土)	金城隆展 学術博士・臨床倫理士 / 名嘉地めぐみ 医学博士・琉球大学医学部
第10回 2月2日(土)	小山珠美 看護師・ロから食べる幸せを守る会理事長 / 樋口耕太郎 トリニティ社長
第11回 2月16日(土)	飯田史彦 光の学校主催・経営心理学者・カウンセラー
第12回 3月2日(土)	樋口耕太郎 トリニティ社長

* 各講座の開講時間はいずれも7:00pm～10:00pmです

場所 沖縄大学 3号館101教室 那覇市字国場555 (10月6日、20日は1号館606教室)
受講料 12回講座分 3万円 (消費税込)
受講資格 業界・職種など不問
お申込み (i)お名前、(ii)メールアドレス (必須)、(iii)ご所属・担当業務・役職、をご記入の上、
q@trinityinc.jp まで、eメールにてご送付下さい

運営者
お問合せ



トリニティ株式会社

〒904-0117 北谷町北前1-17-11 phone 098-936-8312

www.trinityinc.jp q@trinityinc.jp

主催者



社会福祉法人 沖縄県社会福祉事業団

<https://www.okinawa-j.jp/>



主催者のことは

社会福祉法人 沖縄県社会福祉事業団
理事長 金城敏彦

営業職で歩合制給与に働きがいを持って突っ走った20代。毎月のノルマ、売上高の棒グラフ張り出し、理念の唱和……。会社の奉仕者として働く事に疑問を感じ、誰にも相談せず突然退社した。しかし、家族がある。仕事はしなければならない。現法人の募集があったので、何も考えず応募し1982年介護職として採用された。

配属先は重症心身障害児の施設だった。施設も介護職も初めての経験で親切丁寧に教えてくれるのかと思いきや、当時は見て学べの時代であった。

施設利用者が、障害の特性を生かしながら、ゆっくり楽しそうに過ごす。そんな彼らの生活を支えることが、私の中で少しずつ快く感じられるようになってきた。365日24時間、一人一人の利用者の幸せのために何を支援すべきか、正解の無い支援方法をひたすら議論し試行錯誤を繰り返し支援に当たる。施設利用者の「笑顔」、家族からの「ありがとう」の言葉がやはり一番のやりがいである。

そんな中、ある利用者の死に直面した。毎朝車いすに移乗し新聞を全面読み、時には詩を創り、職員と意見を交わす。私にとっては、福祉の心を持った「利用者先生」だった。もっともっとよい支援が出来なかったのかと後悔の念が残った。その後、救護施設、老人施設、婦人保護施設と人事異動に伴いたくさんの施設利用者の皆さんと出会い、働く厳しさや辛さ、楽しさや喜び、福祉施設職員としての心構えを学ぶことが出来た。

社会福祉施設の使命は、良質の福祉サービスの提供であり、経営資源は職員の働きそのものである。介護技術も必須だが、一番重要なのは、人間を理解し、気持ちを通い合わせる力だと実感している。私は、支援者の人間力を育成する必要性を、福祉の現場で感じてきた。支援を必要とする人たちの、行動、表情、状態に細やかな意識を払い、彼らの大切なことに関心を持ち、気持ちを理解してから行動しなければ、どれだけ高度な介護知識、技術、経験、判断も一方的な自己判断に過ぎないからだ。

『命の学校』は、人間力の向上を重視する樋口耕太郎先生の理念に賛同し開校する連続講座である。色々な分野で活躍する魅力ある講師をお招きし、幅広い層に学ぶ機会を提供する。人間を中心としたより良い共生社会が実現出来ることを願い、ここに開校する。幅広い層のご参加を楽しみにしている。

学長のことは

トリニティ株式会社 代表取締役社長
沖縄大学 人文学部 准教授
樋口耕太郎



社会人一年目、私が仕事で悩んでいるときに、当時の支店長が私に話してくれたことがある。人生で成功をつかむ秘訣は、能力でも、お金でも、家柄でも、地位でも、人脈でも、優しさでもない……。それは「自信」だというのだ。

今ならこれが自尊心のことを指しているのだと理解できる。自尊心とは、自分に対する信頼感であり、自分を愛する覚悟であり、ありのままの自分を尊敬する力のことだ。

自尊心の高い人は、自分を必要以上に大きく見せる必要を感じないから、威張らないし、自慢しない。ありのままの自分を恥じないから、オープンで隠し事をしない。満ち足りているから、何かをしてもらうよりも、何かをしてあげることに関心がある。自分らしさを大切に生きているから、他人の目を気にせず打たれ強い。自尊心の高い人は、カッコ悪い自分に胸を張れる真の勇者である。そんな人物が成功しないわけがない。

ところで、自尊心を育むためには、その人の関心に関心を持つ第三者が不可欠なのだが、それがこの社会では決定的に不足しているのだ。私たちは、目先のお金や、成果や、生活や、しがらみのために、目の前の人の、小さな関心に寄り添うことをいつも後回しにしている。経営者も、政治家も、教育者や、親でさえも……。

そんな中、私にとって、驚きであり発見は、介護・福祉・医療業界に「人の関心に関心」を持つ人材が多く存在することに気がついたことだ。日常的に老いと死に向き合わざるを得ない現場で、人は命に関心を持たずにはいられなくなるのかも知れない。

このとき以来、私は確信めいたものを感じている。この分野は、社会に最も不足しているものを提供する、重大な役割を担っているのではないか？この業界にどれほどの価値が存在するか、社会はまだ知らないのだ。

そんなインスピレーションを、形にしたのが『命の学校』である。福祉業界で働く人が「人間」についてより深く学ぶ場所であると同時に、社会の様々な分野で活躍する人たちが、福祉の現場から「命」を学ぶ場所であって欲しいと願っている。この理念を旗印に、この業界に関わる超一流の方を講師にお呼びした。どなたもそれぞれの分野のスーパースターと言える方ばかりである。講義には一切タイトルがない。その方々の生き方そのものがテキストだと思うからだ。ちょっとカッコ悪くても、とんがった生き方を目指す方々の参加をお待ちしている。

第1回： 9月8日（土）

金城敏彦 沖縄県社会福祉事業団 理事長

1982年に沖縄県社会福祉事業団に入社以来35年間、沖縄療育園、よみたん救護園、具志川厚生園、宮古厚生園、うるま婦人寮生活指導員など一貫して介護・福祉の現場に携わってきた。06年事業団の民営化に伴い81名の職員が退職するなど、法人の存続が危惧されるほどの大変革に見舞われるが、この只中に事務部長に就任して多くの大問題を乗り越える。事務局長、常務理事を歴任し15年より事業団初のプロパー理事長に就任。

沖縄県社会福祉法人経営者協議会副会長、沖縄県共同募金会理事、沖縄県社会福祉協議会理事。沖縄大学経済学部卒。



樋口耕太郎 トリニティ社長・沖縄大学 人文学部 准教授

1965年生まれ、岩手県盛岡市出身。89年筑波大学比較文化学類卒、野村証券入社。93年米国野村証券。97年ニューヨーク大学経営学修士課程修了。約8年間のウォール街での勤務後、共同経営した金融ベンチャー（JASDAQ上場）を業界最大手（当時）に導くなど、日米の不動産金融事業で大成功を収める。04年サンマリーナホテル（沖縄）を取得・再生したことをきっかけに価値観を大きく転換。人間中心・愛の経営による事業再生会社トリニティ設立。12年沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科准教授。人と社会の幸せを考える「幸福論」など担当。

第2回： 9月22日（土）

村瀬孝生 宅老所よりあい代表

1964年生まれ。福岡県飯塚市出身。東北福祉大学卒業後、就職した特養で「老いとぼけ」の世界を知る。そこにある人間の真面目で滑稽な営みから介護を学ぶ。社会における老いの居場所のあり方を模索中。福岡市に二つの宅老所と地域密着型特養を運営。「よりあい」代表、作家。『おばあちゃんが、ぼけた。（よりみちパン！セ 25）』、『認知症をつくっているのは誰なのか』など、著書、講演多数。「宅老所よりあい」は詩人の谷川俊太郎氏が大推薦する施設。 <http://voiceo.info/blog/58>



第3回： 10月6日（土）

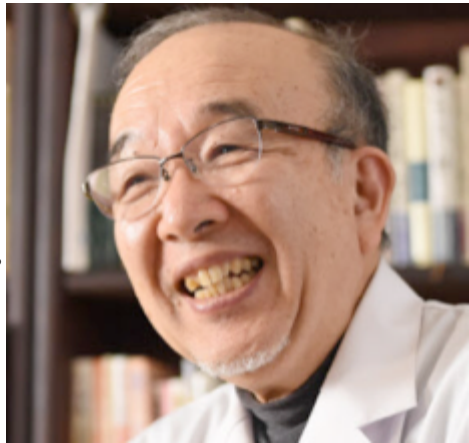
高山義浩 沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科医長

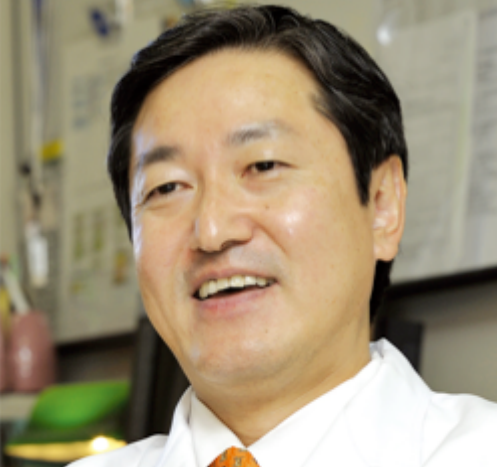
東京大学医学部保健学科卒業後、フリーライターとして世界の貧困と紛争をテーマに取材を重ねる。佐久総合病院総合診療科にて地域医療に従事。沖縄県立中部病院にて地域ケア科を立ち上げ、在宅緩和ケアを開始。現在は、急性期病院と地域包括ケアシステムの連携推進に取り組んでいる。群馬大学医学部、神戸大学医学部、琉球大学医学部非常勤講師。沖縄県地域医療構想検討会議委員、沖縄県在宅医療・介護連携推進事業統括アドバイザー、著書に『アジアスケッチ 目撃される文明・宗教・民族』『地域医療と暮らしのゆくえ 超高齢社会をともに生きる』など多数。

第4回： 10月20日（土）

徳永進 野の花診療院院長

鳥取市野の花診療所・院長。1948年鳥取県生まれ。京都大学医学部卒業後、国立京都病院、大阪吹田の同和地区診療所医師を経て、鳥取赤十字病院勤務。一般内科・終末期医療を専門の臨床医として第一線に立つ。1992年、地域医療への貢献で、第一回若月賞を受賞。2001年、鳥取市内にホスピスケアのある19床の有床診療所「野の花診療所」を開設。医療の現場から発信するエッセイやノンフィクションを多数執筆。1982年、『死の中の笑み』で、第4回講談社ノンフィクション賞を受賞。 <http://nonohana.no.coocan.jp/>





第5回： 11月10日（土）

藤田次郎 琉球大学医学部付属病院長・医学博士

1956年生まれ。高松市出身。岡山大学医学部卒。1981年より内科医としてキャリアをはじめる。米国ネブラスカ医科大学呼吸器内科留学などを経て、2005年には琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科（第一内科）教授に就任。2015年に琉球大学医学部付属病院長に就任。現在、日本呼吸器学会（理事、九州支部長）、日本結核病学会（理事、九州支部長）、日本感染症学会（理事、西日本地方会代表）などの要職を務める。感染症内科、および呼吸器内科のエキスパートとして、多数の著書、および論文（英文論文400編以上、和文論文750編）を発表している。2001年 American College of Chest Physician 日本部会賞、2002年日本結核病学会今村賞受賞。



第6回： 11月24日（土）

加藤忠相 あおいけあ代表

神奈川県藤沢市生まれ。1997年東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科卒業。卒業後、3年間の高齢者施設勤務を経て2000年株式会社あおいけあを設立し、現在高齢者に介護福祉サービスを提供する4つの施設を運営中。高齢者を被介護者ではなく“社会資源”として捉え、“誰もが居場所のある介護福祉”をめざす運営方針への注目は年々高まり、「介護の常識を超えた施設」として全国から見学が絶えない。2013年「第一回かながわ福祉サービス大賞」受賞、『プロフェッショナル仕事の流儀』（NHK）で紹介されるほか、『日経ビジネス』にて「次代を創る100人〜2017〜」に選出。2017年6月、あおいけあに着想を得て制作された映画『ケアニン』（厚生労働省推薦）が公開。

<http://www.nhk.or.jp/professional/2016/1003/index.html>



第7回： 12月8日（土）

奥野修司 ノンフィクション作家

2006年『ナツコ 沖縄密貿易の女王』で、講談社ノンフィクション賞・大宅壮一ノンフィクション賞受賞。「全村病院構想」を説き、寝たきり老人が10分の1に激減、在宅死亡率70%、医療費削減を実現し、90歳で引退するまでへき地医療に従事した高知県の疋田医師を描いた『満足死 寝たきりゼロの思想』、2000人以上を看取った、宮城県のがん専門医岡部医師の仕事と死生観。そして、自身もがんで逝去するまでを描いた『看取り先生の遺言 がんが安らかな最期を迎えるために』、東北大震災で最愛の人を失った遺族たちの霊体験を描いた『魂でもいいから、そばにいて 3・11後の霊体験を聞く』など、生と死と病と看取りについて、多くの取材を経験している。2014年度より大宅壮一ノンフィクション賞選考委員。



第8回： 12月22日（土）

武元康明 半蔵門パートナーズ代表

航空業界を経て、21年の人材サーチキャリア、2万人超のインタビュー実績を持つ世界有数のヘッドハンター。クライアント対応から候補者インタビューまで幅広く手がけるため、全国各地を毎日飛び回る。CM出演をはじめ、大阪教育大学・研究発表会や東京外国語大学でのビジネスキャリア・講師として幅広く活躍。「働くとは何か？生きるとは何か？」を問い掛けるテレビ東京・ドラマBiz「ヘッドハンター」監修。近著「30代からの『異業種』転職・成功の極意：超一流ヘッドハンターが教える！」（河出書房新社）他多数。

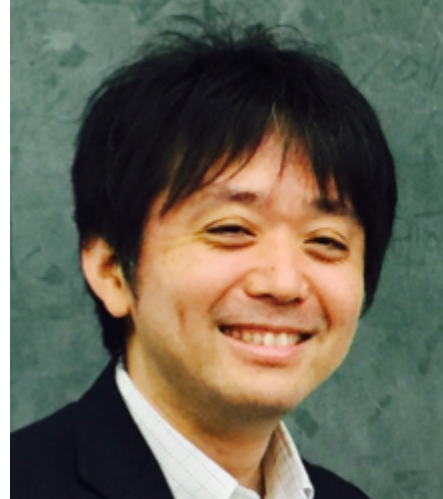
http://www.tv-tokyo.co.jp/head_hunter/intro/

第9回： 1月12日（土）

金城隆展

臨床倫理士・琉球大学・学術博士

琉球大学医学部附属病院 地域医療部 臨床倫理士（倫理コンサルタント）。米国、ロマリダ大学にて生命医療・臨床倫理学の修士号、大阪府立大学大学院にて博士号を取得。大阪府立大学客員研究員、東京大学大学院特任研究員、琉球大学医学部非常勤講師、群馬大学非常勤講師を経て、平成23年より現職。専門は生命／医療／臨床倫理で、特にナラティブを医療倫理に導入した「ナラティブエシックス」を研究している。



名嘉地めぐみ 琉球大学医学部医学教育企画室 医学博士

1996年琉球大学医学部医学科卒業後、琉球大学医学部附属病院第3内科に入局。国立病院九州医療センター、国立循環器病センター研究所を経て、九州大学大学院で博士号取得（動脈硬化の研究）。その後、沖縄県総合保健協会（現 沖縄県健康づくり財団）、琉球大学医学部附属病院専門研修センター特命助教を経て、2012年より現職。学内と学外病院の臨床実習のコーディネート、キャリア教育及びシミュレーション教育の授業を担当。総合内科専門医、腎臓内科専門医、日本抗加齢医学会専門医。



第10回： 2月2日（土）

小山珠美

看護師

摂食・嚥下障害を抱える人たちの食べる力を回復させるエキスパート。看護師歴38年。1995年七沢リハビリテーション病院血管センター看護師長。2001年神奈川リハビリテーション病院看護師長。2005年愛知県看護協会認定看護師教育課程「摂食嚥下障害看護」分野主任教員。2013年東名厚木病院摂食嚥下療法部長。2015年よりJA神奈川県厚生連伊勢原協同病院勤務。NPO法人口から食べる幸せを守る会理事長。日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士。『口から食べる幸せを守る ― 生きることは食べる喜び』など著書・講演多数。2016年5月16日放送、NHK『プロフェッショナル 食べる喜びを、あきらめない』出演。

<http://www.nhk.or.jp/professional/2016/0516/>



第11回： 2月16日（土）

飯田史彦

経営心理学者

1962年広島県生まれ。元福島大学教授、経営心理学者、カウンセラー、いのち作家、音楽療法家。1990年より2009年3月までの19年間、福島大学経済経営学類の助教授・教授を務め、東北大学大学院、筑波大学大学院などでも開講。

2009年3月末で教授職を辞し、8月には、長年の夢であった、「誰のいかなる悩みに対しても、飯田自身が2時間をかけて無償でカウンセリングを行う」という画期的な施設「光の学校」を設立した。200万部を超える『生きがいの創造』シリーズの著者としても知られる。

<http://iidakenkyusho.jp/>